平成２０年８月の解説（府県天気予報）

【８月の天候状況】

上旬は北日本から西日本では高気圧に覆われて、晴れて暑い日が多くなりましたが、旬前半は本州では大気の状態が不安定となり、各地で局地的な大雨となりました。中旬は北日本から西日本では旬初めに晴れましたが、その後前線や低気圧の影響で東北地方や東・西日本の日本海側を中心に曇りや雨の日が多くなり、大雨となったところがありました。北日本では旬後半に強い寒気が入り、低温となりました。下旬は北日本から西日本では低気圧の影響で曇りや雨の日が多くなり、東北地方や関東・東海地方を中心に大雨となりました。また旬前半はオホーツク海低気圧や寒気の影響で北日本を中心に顕著な低温となりました。

月を通しての日照時間は、沖縄地方では平年より多くなりましたが、そのほかの地方は少なくなりました。降水量は東北地方から東日本と九州地方では平年より多くなりましたが、南西諸島ではかなり少なくなりました。気温は南西諸島では平年より高くなりました。

【８月の検証結果】

17 時発表の天気予報で「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報で 79%と例年(注) より 1 ポイント高く、明後日予報で 71%と例年より 3 ポイント低くなりました。地域毎の適中率では、明日予報は東北、東海、沖縄地方では例年より 5 から 7 ポイント高く、九州南部地方では例年より 5 ポイント低くなりました。明後日予報は近畿、四国、九州南部地方で例年より 9 から 14 ポイント低くなりました。明日の最高気温の予報誤差は全国的にほぼ例年並みで、全国平均では例年と同じ 1.7℃でした。また、最低気温の予報誤差も全国的にほぼ例年並みで、全国平均では例年より 0.1℃小さい 1.1℃でした。

(注) 例年値は気象庁ＨＰ（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【８月の天気予報から】

８月 17 日は、前線が日本の東から伊豆諸島付近を通って九州北部地方に停滞し、高気圧が日本海に移動して来ました。関東地方には北東から冷たく湿った空気が流れ込み、下層の雲に覆われたため（図１）、広い範囲で日最高気温が 26 度以下となりました。

当日１７日の朝発表した東京地方の天気予報は「くもり　所により夜のはじめ頃まで雨」、日中の最高気温予想は 29 度でした。このような予報としたのは前日（16 日）雨を降らせた前線が南下し、関東地方には北東から冷たく湿った空気が流れ込んで、最高気温は前日より５度程度は低くなると考えたからでした。

実際の東京地方の天気は「雨一時曇り」でした。明け方までは「曇り」でしたが、その後昼過ぎ

までは数時間降り続いても降水量が１mm に達しないような「小雨」となりました。図２に示した 17 日の降水量のほとんどは、夕方から夜のはじめ頃にかけて降った雨によるものでした。

天気予報は、日中「小雨」が降り続き、日中の最高気温も５月中旬並みの 22.9 度（09 時 16 分）と大きく外れてしまいました。数値予報や最新の観測データを駆使し、的確な予報を発表するように常日頃から取り組んでいますが、８月中旬の最も暑い時期に前日（34.1 度）より 11 度も低く予想するのは非常に難しいのが実情です。翌日（18 日）には最高気温は再び７度近く上がり、７月下旬並の 29.7 度となりました。今回のような特異な事例についても資料を収集、分析して、予報の精度向上を目指しています。

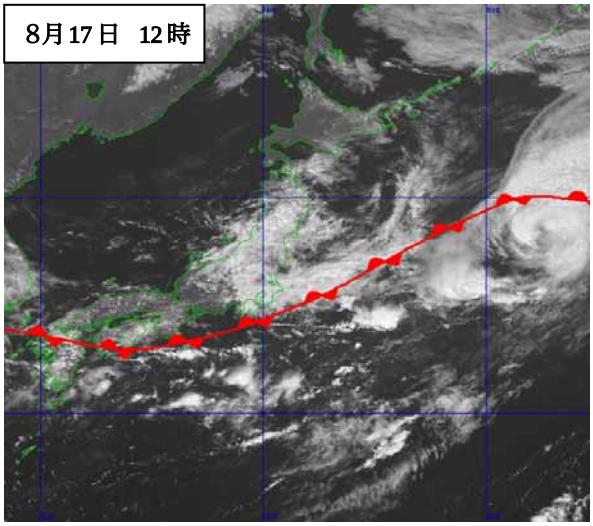

図１　平成 20 年８月 17 日 12 時
気象衛星（可視画像）と停滞前線

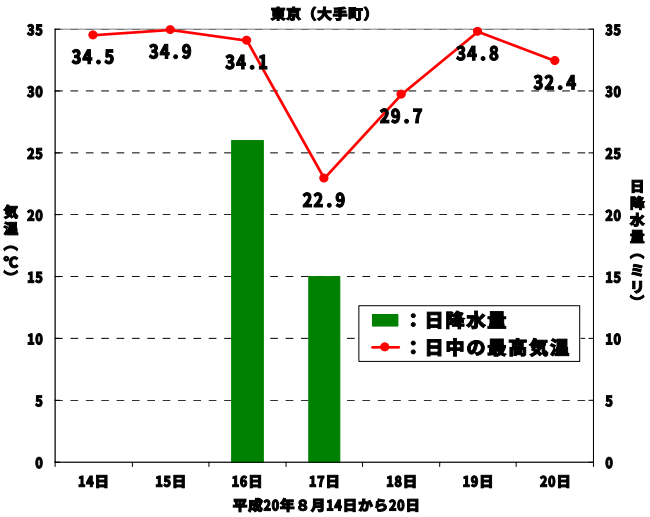

図２　平成 20 年８月 14 日から 20 日
までの東京（大手町）の
日中の最高気温と日降水量

【１０月の天気予報の利用にあたって】

例年、10 月は移動性高気圧に覆われて晴れる日が多い月ですが、同時に冬に向けて急速に気温が低くなっていきます。北日本や東日本の高い山では雪が降ることもあり、北海道では平地でも初雪の季節を迎えます。

2002 年 10 月 26 日から 27 日にかけて低気圧が発達しながら日本付近を通過した後、28 日から 30 日にかけて強い冬型の気圧配置（図 1）となりました。このため 29 日には北日本・東日本の標高の高い地域で雪が積もって農作物などが被害を受けました。

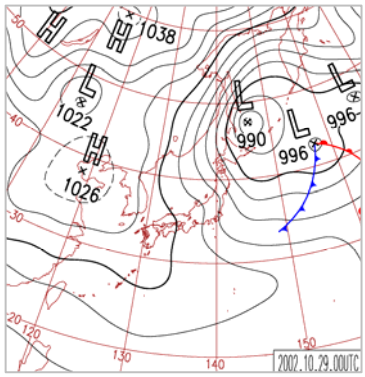

図1 2002 年 10 月 29 日 09 時の地上天気図

10 月は、さわやかな秋晴れとなる日も多くレジャーなどで山に出かける機会も増えますが、特に標高の高い地域などにお出かけになる際には、天気予報で予想気温や山で雪が降るような予報が出ていないかを調べ、あらかじめ雪や寒さへの対策を考慮されることをお勧めします。